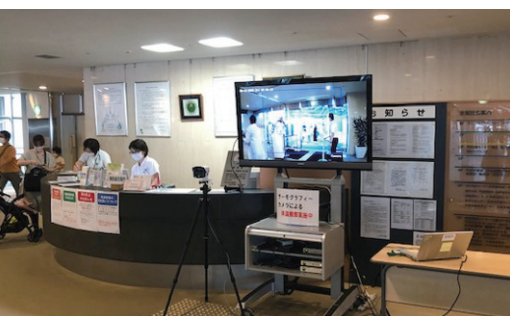


患者さんの広場

ちっぴり



サーモグラフィによる体温測定



もの忘れ予防検診風景



久大ホテル・ガレノス久留米の外観

私たちの理念

人と地球にやさしい、^{いのち}生命を慈しむ医療

私たちのめざす医療

1. 患者中心の医療

生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。

2. 共生の医療

地球環境にやさしい共生の医療をめざします。

3. 高度で安全なチーム医療

安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。

4. 地域と共に歩む医療

地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。

5. 優れた医療人の育成

教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

第37号 久留米大学病院 広報誌 2020.9 No.037

- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 対策と新しい生活様式について

渡邊 浩

- 肺疾患の新たな診断手技としての クライオバイオプシー

石井 秀宣

- がん看護外来を知っていますか？

塗木 京子

- 福岡県認知症医療センター

久留米大学病院の取り組み 鶴久 裕貴

- 久大ホテル・ガレノス久留米のご紹介

佐藤 圭

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策と新しい生活様式について

感染制御科 教授 渡邊 浩

2019年12月に中国で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に広がり、2020年8月6日時点で1800万人以上が感染し、70万人以上の死亡者を出しており、今なお世界的な流行が続いている状態です。わが国においても2020年1月14日に国内1例目が確認されましたが、4月に入って感染者が急増し、久留米市でもクラスターの発生を認めたため、久留米大学病院でもすべての受診者の体温測定、面会制限および受付窓口の飛沫感染防止ビニール設置などの対応を実施しました。緊急事態宣言後、感染者は一旦減少しましたが、残念ながら行動制限が緩められた後に都市部の夜の街や昼カラオケなどでクラスターが発生し、再び感染者数が全国的に増加し、終息の見通しがつかない状況となっています。

既にCOVID-19発生後半年以上が経過しても世界的な流行が続いており、国内でも持続的な感染者が発生しているということは、少なくとも有効なワクチンが十分に活用できるまでは、我々はCOVID-19と共存しながら生活しなくてはならない可能性が高いということになります。

COVID-19発生後、我々の生活様式は大きく変化しました。ソーシャルディスタンス、マスクの着用、手洗い、こまめな換気、3密（密集、密接、密閉）の回避など厚生労働省が示した「新しい生活様式」を理解し、実践を継続していくことが大切であると考えられます。これらの対策はCOVID-19のみならず、インフルエンザなどの飛沫・接触する感染症全般に有効な対策ですので、これまでの生活様式を見直し、是非実践して頂きたいと思います。



厚生労働省「新しい生活様式」の実践例（抜粋）

（１）一人ひとりの基本的対策

- ☐ 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける
- ☐ マスクの着用
- ☐ 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う

（２）日常生活を営む上で基本的生活様式

- ☐ まめに手洗い・手指消毒
- ☐ 咳エチケットの徹底
- ☐ こまめに換気
- ☐ 身体的距離の確保
- ☐ 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- ☐ 毎朝の体温測定、健康チェック



（３）日常生活の各場面での生活様式

買い物

- ☐ 通販も利用
- ☐ 1人または少人数ですいた時間に
- ☐ サンプルなど展示品への接触は控えめに
- ☐ レジに並ぶときは、前後にスペース

食事

- ☐ 大皿は避けて、料理は個々に
- ☐ 対面ではなく横並びで座ろう
- ☐ 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- ☐ お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

公共交通機関の利用

- ☐ 会話は控えめに
- ☐ 混んでいる時間帯は避けて
- ☐ 徒歩や自転車利用も併用する

冠婚葬祭などの親族行事

- ☐ 多人数での会食は避けて
- ☐ 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

久留米大学病院では院内での感染防止対策を十分に講じ今後も引き続き安全で安心な医療を提供いたしたく、当院にお越しになる皆様におかれましても、次のことを遵守いただきますよう、ご協力をお願いしております。

- 面会禁止や外来付き添い者の制限等を行うことがあります
当院のホームページ、院内掲示等をご確認ください

<https://www.hosp.kurume-u.ac.jp/>

- 感染予防のため、来院時の手指消毒、マスク着用にご協力をお願いします
(当院ではマスクの配布をしておりません)

肺疾患の新たな診断手技としての クライオバイオプシー

呼吸器病センター 石井 秀宣

呼吸器病センターで、クライオバイオプシーという手技のために新たにクライオプローブという検査機器を導入致しましたので紹介させていただきます。クライオ＝冷凍、バイオプシー＝生検という意味で、組織を冷凍させて採取するという方法です。

クライオプローブについて

クライオプローブは内視鏡用デバイスで、詳細は割愛しますが、ジュール＝トムソン効果という原理を利用してプローブ先端を -89°C まで冷却することができます。冷却されたプローブ先端部が接触した周囲の組織が凍結され、大きな検体として採取することができます。現在、実施できる施設は福岡県内でも数施設のみとなっています。

クライオバイオプシーのメリット

クライオバイオプシーのメリットとして挙げられるのは、何よりも採取できる組織の大きさです。間質性肺炎に代表されるびまん性肺疾患では、これまで確定診断のためには手術による肺切除が必要でした。それは、通常の気管支鏡生検では採取できる肺組織が極めて小さく、びまん性肺疾患の診断には不適であったためです。クライオバイオプシーで採取できる肺組織の量は、手術生検よりは小さいものの、通常の気管支鏡生検よりもはるかに大きく、びまん性肺疾患の診断に必要な分量であるとされています。

また、気管内異物でもその能力を十分に発揮します。鉗子でうまくつかめないような異物でも凍結させてプローブに接着させることで除去が容易となります。さらに、肺がん診断にも応用が進んでいます。現在、がんゲノム医療が普及し、様々な分子標的薬と呼ばれる抗がん剤が使用可能になっています。採取したがん細胞から遺伝子異常を調べる必要がありますが、組織量が不十分だと稀な遺伝子異常まで網羅した検査が不可能なことがあります。クライオバイオプシーで十分な量の組織を採取することで、適切な遺伝子診断にもつながります。

クライオバイオプシーの合併症

採取する組織が大きいため、出血や気胸といった合併症は増える傾向にあります。採取部位を慎重に確認したり、血管形成術用のバルーンカテーテルを用いて出血のコントロールを行うように努めています。



左：クライオ装置、右：クライオプローブ
(呼吸臨床. 2017年第1巻1号)

がん看護外来を知っていますか？

がん看護専門看護師 塗木 京子

みなさんは「看護外来」という言葉を聞いたことはありますか？外来というと医師が行うものというイメージがありますが、「看護外来」は名前のとおり、看護師が患者さんやご家族と面談や処置を行う外来です。

久留米大学病院には現在、「ストーマ」「リンパ浮腫」「フットケア」「がん看護」の4つの看護外来があり、それぞれの分野を専門的に学んだ認定看護師や専門看護師が担当しています。今回は私が緩和ケア認定看護師とともに担当している「がん看護外来」についてご紹介します。

「がん」と聞くと死や痛みなどマイナスのイメージを持たれる方が多いと思いますが、今はがん自体に対する治療、がんから起こる治療方法もすすみ、がんになっても生きていける「がんと共に生きる時代」となってきました。がん看護外来では、がんと診断された患者さんの治療や療養に対する不安やこれからのことについて決めるための支援を行っています。

病気と共に生きるために、体のつらさだけではなく、気持ち(心)のつらさや経済的なことなど、様々なつらさを楽しむことが大切です。話をすることで気持ちが楽になることもあります。

以下のお悩みを抱えた方は、是非看護外来を利用してみてください。

- ・病状や治療の不安があり話をしたいが、ゆっくり医師や看護師と話す時間がない
- ・病気のことを周囲の人(家族や友人)にどう話したらいいか迷っている。
- ・なんだかわからないけど不安でたまらない
- ・治療や療養する場所などどう決めていけばよいかわからない
- ・緩和ケアについて知りたい

ゆっくりとお話をお聞きできるようがん看護外来は予約制としております。利用を希望される場合は、現在のかかりつけの医師もしくは看護師にご相談ください。

がん看護外来

対象者：当院に通院/入院中の患者さん

場 所：総合診療棟6階 緩和ケアセンター相談室1

外来日：予約制 ご希望をお聞きし日程を調整します。

各科主治医または看護師へご相談ください。



福岡県認知症医療センター 久留米大学病院の取り組みについて

医療連携センター

精神保健福祉士 鶴久 裕貴

久留米市の高齢化率は、令和2年5月で、26.9%となっており、団塊の世代が75歳となる令和7年には、29.3%に上昇する見込みです。久留米大学病院は、平成23年11月に福岡県認知症医療センターの指定を受けており、その主な役割の一つとして、地域住民向けには、年1回オレンジ健康フェスタ（市民公開講座）を開催し、関係機関や地域の企業や団体と協同で認知症に関する正しい知識や理解を深めて頂けるようなイベントを行っております。その他にも、認知症の予防、早期発見、早期対応を目的に、久留米市、地域包括支援センターとも連携を図り「もの忘れ予防検診」を年間5回開催しております。この「もの忘れ予防検診」では、認知症に関するミニ講話、認知機能の簡易スクリーニング検査、嗅覚・聴覚検査、眼球運動検査、脳血流検査や、体組成と運動機能やうつなどの検査を実施することでフレイル（健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態）チェックも含め、医師が総合的に判定を行い、健常群、中間群、認知症の疑い群の3つに分類し必要に応じてかかりつけ医へフィードバックや専門医への受診紹介を行っております。広報くめに開催月に案内しており、お電話での予約申し込みを受付けております。参加費用は無料で医療機関への受診に対して躊躇のある方などにも活用できる機会にもなっており、大変好評なものとなっております。この先出来る限り健康で地域で安心して生活できるように自分のため、家族のためにも是非参加してみたいはいかがでしょうか。最後に、認知症に関する様々な相談もおこなっておりますので、お気軽にお問合せ下さい。



福岡県認知症医療センター
相談連絡先：0942-31-7903
電話受付時間
月～金曜日（祝日除く）
9：00～16：30

久大ホテル・ガレノス久留米 Hotel&Dormitoryのご紹介

久大ホテル・ガレノス久留米Hotel&Dormitory

最高経営責任者 佐藤 圭

“泊まる”から“過ごす”へ。をコンセプトに
久留米大学病院の患者さん、そのご家族、ご友人、
久留米大学病院に働く全ての職員とそのご家族、
そして病院を支えてくださる全ての関係者の皆様、
及び久留米を訪れるすべての方々のために、
久大ホテル・ガレノス久留米は
長期滞在対応型宿泊施設として令和2年3月26日に誕生しました。



久留米大学・久留米大学病院からのアクセスに恵まれ
朝・夕2食付き（日・祝日は除く）、大浴場、DinnigHall、展望テラス
室内には43型液晶テレビ、ツイン・160cm幅クイーンサイズベッド標準装備
加湿機能付き空気清浄機、無料高速Wifi等ご準備し穏やかで、温かく、ホッとできる
空間をご提供いたします。

久留米大学医学部男子学生寮と宿泊施設が併設し、1泊はもちろんのことウィークリー
マンション、長期滞在のご宿泊に対応しております。

また、我々スタッフ一同は、全てのお客様の“今日”と“明日”を思いながら、
「いってらっしゃいませ。」を大切に日々精進しております。
多くのお客様とお会いできることを楽しみに、皆様のご来館を心より
お待ちしております。

久大ホテル・ガレノス久留米Hotel&Dormitory
〒830-0001 福岡県久留米市小森野町4丁目8-10
お問い合わせ先：0942-48-1301
galenus-kurume.com/